

令和6年度 学校努力点 万場小学校

1 テーマ

「やってみよう!」「できる!」やる気あふれる万場っ子
～「めあて」とともに、自律して学び続ける子どもの育成を目指して～

2 研究のねらい

本校では、昨年度まで、名古屋市の授業づくりの重点である「なかまなビジョン」を共通基盤とした算数科での授業実践を通して、「できる・楽しい」授業や、自分の考えを表現し、かかわり高め合う学習の実現を目指してきた。特に「クラス会議」で醸成されてきた安心して話し合う雰囲気や土台として、「なかまと対話する」段階における対話活動の在り方を工夫したことで、「友達と力を合わせて学ぶと分かるからうれしい」と、学び合い高め合う子どもの姿が多く見られるようになった。一方で、自分の考えを表現できない姿や、学習意欲が継続せず、自律して学び続けることが難しい実態が見られた。

以上を踏まえ、今年度、本校の期待する子どもの姿は、今年度から実施される「ナゴヤ学びのコンパス」にも示されている「ゆるやかな協働性の中で、自律して学び続ける子ども」である。そのために、昨年度に引き続き、「なかまなビジョン」を共通基盤として、導入での「めあてをつかむ」段階に焦点化し、算数科の授業実践を行う。

学ぶペースや課題の追究方法を選択・決定して個々の「めあて」として設定することで、子どもが中心となる学びの中で、次も「やってみよう!」「できる!」と、粘り強く前向きに自律して学び続ける姿勢を育んでいきたい。

3 本年度の取り組み（具体的な手立て）

「なかまなビジョン」に示された学習過程のモデル

◎ めあてをつかむ（重点）	→	自分の考えをもつ	→	なかまと対話する
			→	まとめる
				→ 振り返る

◎ 「めあてをつかむ」段階において、次に示すポイントを重点として取り組む。

授業のねらいとしてみんなで設定した学習目標（明確に示された単元のゴール）をもとに、学ぶペースや課題の追究方法を選択・決定して個々の「めあて」を設定するようにする。

○ それぞれの段階において、次に示すポイントに注意して取り組む。

「自分の考えをもつ」段階

一人ひとりの考えを引き出せるような、教材提示や発問を工夫する。また、個々の「めあて」を大切に、個人で考えたり、書いたりする時間を十分に確保する。

「なかまと対話する」段階

「ゆるやかな協働性」を意識し、子どもにとって必要感のある対話活動となるように工夫する。

「まとめる」段階

「navima」「Qubena」等のAIドリルや諸教材を活用し、適用・活用問題に取り組む。結果をもとに、学習目標に対するまとめを子どもの言葉で整理する。

「振り返る」段階

個々の「めあて」をもとに、次の学びにつながる振り返りができるようにする。

4 研究の方法について

(1) 評価の方法

- 年3回の「算数アンケート」（推進委員会で検討 手挙げやロイロノート等で集計する）を行い、変容を見取る。

(2) 研究計画

- 各学級で年1回、算数科の授業研究を公開する。
 - ※ 通級指導担当教諭は教科を限定せず、主題に合わせて授業を公開する。
 - ※ 「めあてをつかむ」段階や、その効果の分析を中心に、部会で分担して参観できるようにする。
- 事前検討会を学年で行う。
- 事後検討会を部会で行う。事後検討会の記録を作成し、まとめに代える。
- 実施時期ができるだけ重ならないよう、部会で計画する。1週間前を目処に授業日を教務に伝える。前日までに略案を職員の机上に配布する。
- 努力点研究について保護者にも授業公開を行う。（学校開放日【10月】）
また、研究の様子を学校だより、学年だよりに掲載する。

(3) 報告

年2回の報告会（中間・最終）を行い、子どもの変容や手立てについて話し合う機会を設ける。

5 研究組織

